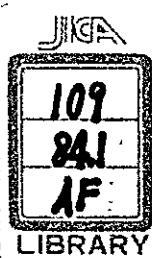


カンボディアとうもろこし開発のための
試験設計並びに試験圃場の規模について

昭和 43 年 1 月

海外技術協力事業団



國際協力事業團

受入 月日	'84. 5. 17	109
		84.1
登録No.	05468	AF

カンボディアとうもろこし開発のための
試験設計並びに試験圃場の規模について

試験の方針は Soctropic の採種事業を軌道にのせ、早急に現地に適した耕種基準を確立し、農民の技術水準のレベルアップを計るため、 F_1 を普及することにある。

したがつて試験の進め方は、当面品種の選抜、検討を主眼に、 F_1 の育成、採種方法およびその栽培方法の検討を併せて下記設計により行ないたい。

なお、品種選抜試験は品種特性調査を兼ね単に優良品種の選抜に止まらず将来の F_1 の両親の選定をも考慮するものである。又、栽培法について、状況によつては三要素用量試験、栽植密度試験を別に組む要も考えられる。

JICA LIBRARY



1048309[7]

A. 試験設計

1. 品種に関する試験

1) 品種の蒐集

- (1) 現地在来種(フリント)の蒐集
- (2) 外国種(デント)の導入

2) 品種保存

供試品種数 100 採種量 3 kg/1 品種

1 区面積 70 m² 240 株

60 株 選抜 1 穂粒重 50 g

$$70 \text{ m}^2 \times 100 = 7000 \text{ m}^2 \quad 70 \text{ a}$$

-1-	52.7.19	上226
		4/5
	試験No. 5046	K

3) 品種選抜試験

(1) 品種選抜試験(特性調査を兼ねる)

供試品種数 100 (在来種, 導入品種, 導入F₁)

施肥量 無肥区, 施肥量区 の2段階

20 m² × 100 品種 × 2 肥料 × 3 反覆 = 12000 m²

120 a

(2) 交配

導入F₁の採種 20 a

2. 栽培法に関する試験

1) 栽植密度対施肥量試験

供試品種 在来種 F₁ 各1品種

栽植密度 9段階(畦巾, 株間 3段階

1株本数 3段階)

施肥量 3段階

50 m² × 2品種 × 9 栽植密度 × 3 肥料 × 3 反覆

= 8100 m² 81 a

2) 播種期試験

供試品種 2

播種期 3

20 m² × 2品種 × 3 播種期 × 3 反覆 = 360 m² 4 a

3. 採種方法に関する試験

1) 両親比 40 a

2) 播種期

3) その他

4. 原種圃および原種検定圃

原々種圃(隔離)	5品種	50a
原種検定圃	5品種	50a
計		435a
道路25%として		110a
小計		545a
これを3年輪作とすれば	16ha	を要する。

5. 試験の年次計画

- 1) 品種、栽培法については2~3年で一応のメドをつける。
- 2) 以後、育種試験を開始する
 - (1) 品種選抜試験により選抜された優良品種の系統選抜試験
 - (2) 選抜系統の組合せ検定試験
 - (3) 選抜系統の自殖開始
 - (4) 雄性不稔の利用

これに要する圃場は品種および栽培法の試験の縮少に伴つて供用して行く。

B 建物および敷地

建物面積 34a

建物敷地 $34a \times 4 = 136a$

総面積 3年輪作として17.4haを要するが、さらに三要素用試験、耐病性品種育成試験等を行なうとして、余裕地をみれば約20haを要する。

c. Soctropic の採種圃

採種圃は試験場より半径 50 km の範囲に設置することを第
1 希望とする。（1 日で行動できる距離）

